

達第十五號

明治三十二年六月達第百十九號ヲ廢ス

明治四十一年二月三日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

達第十五號參照

明治三十二年達第百十九號ノ海軍省醫務教科書別冊ノ延定ムル件ナリ

二十八

海軍

3111

達第十六號

軍艦安藝外五隻及驅逐艦浦波ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治四十一年二月三日 海軍大臣 男爵 齋藤 實

信號符字							艦名
G	G	G	G	G	G	G	安
Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	藝
R	R	R	R	R	R	R	外
V	N	M	L	K	J	H	五
							隻
							及
							驅
							逐
							艦
							浦
							波

二十九

海軍

3112

達第十七號

明治四十年達第五百十一號ヲ廢ス



明治四十一年二月五日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

達第十七號

達第五百十一號ノ海水浴場設置品中電燈(電燈共)兵隊ニ關入ノ件ナリ

三十一

海軍

3113

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大正九年達第百  
三十九号次々  
廢止



3114

達第十八號

海軍信號誌別冊ノ通改正ス

明治四十一年二月七日



明治三十八年達第百四十五号

海軍大臣男爵齋藤

實

三十一

海

軍

達第十九號

海軍總隊下士卒教育規則中第三十四條第三十五條及別表第五ヲ削除ス

明治四十一年二月八日

海軍大臣 男爵齋藤 實

達第十九號參照(明治三十六年達第二十二號)

- 第三十四條 基本長ハ總砲射擊術獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年十二月一日ニ於テ砲射擊規則ニ基ツキ部下下士卒ノ射擊成績ヲ調査シ前年十二月一日以後三回以上ノ總砲射擊成績ヲ爲シ其點平均七十點以上ヲ得タル者ニ射手履歷(別表第五)ヲ授與シ更ニ選拔ノ上優等射手ヲ命シ優等射手證狀(第一番式)ヲ與フヘシ
- 一 優等射手ハ十二月一日ノ現在ニ於テ前項優等者ニ就キ成績順序ニ從ヒ之ヲ命ス若シ其ノ成績同等ナルトキハ距離目測ノ成績ニ依リ距離目測ノ成績ハ優等測手選拔ノ例ニ依ル
- 二 優等射手ノ數ハ各其ノ基本部ニ屬スル機砲以上ノ砲數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ半定員ヲ置キタルトキハ各其ノ砲數ノ十分ノ一トス
- 三 驅逐隊ニ編成サレザル驅逐隊ニ在テハ前項ニ準シ優等射手ヲ命スルコトヲ得
- 軍艦、驅逐隊、水雷艇隊以外ノ各基本部ニ在テハ十二月一日ニ於テ現ニ射手履歷ヲ有スル人員ノ十分ノ三
- 四 射手履歷ハ一回授與シタルトキハ更ニ授與セザルモノトス
- 三 優等射手證狀ノ有効期限ハ翌年十一月三十日マテトス
- 四 射手履歷ハ一回授與シタルトキハ更ニ授與セザルモノトス

第三十五條 基本長ハ距離目測獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年十二月一日ニ於テ部下下士卒中前年十二月一日以降三十回以上ノ實習ヲ經平均五點以上ノ成績ヲ得タル者ニ就キ選拔ヲ行ヒ優等測手ヲ命シ優等測手證狀ヲ與フヘシ(第一番式)

- 一 優等射手ハ前項優等者ニ就キ成績順序ニ從ヒ之ヲ命ス若シ其ノ成績同等ナルトキハ總砲射擊ノ成績ニ依リ總砲射擊ヲ爲セル者ニ在テハ小銃射擊ノ成績ニ依リ又總砲射擊ヲ爲セル者ト爲サレタル者ト其ノ成績同等ナルトキハ總砲射擊ヲ爲セル者ニ命ス
- 二 優等測手ノ數ハ各基本部ニ屬スル機砲以上ノ砲數ノ五分ノ一ヲ超ユルヲ得ス但シ半定員ヲ置キタルトキハ各其ノ砲數ノ十分ノ一トス
- 軍艦、驅逐隊、水雷艇隊以外ノ各基本部ニ在テハ其ノ兵曹水兵定員ノ五分ノ一マテ優等測手ヲ命スルモノヲ得但シ海兵團ニ在テハ其ノ兵曹水兵定員ノ十分ノ二トス
- 三 優等測手證狀ノ有効期限ハ翌年十一月三十日マテトス
- 四 測手ノ成績ヲ定ムルニハ左ノ例ニ依ル
  - 誤測ナキ者 十點
  - 距離ノ誤測十分ノ一未滿ノ者 八點以上十點未滿
  - 距離ノ誤測十分ノ二未滿ノ者 四點以上八點未滿
  - 誤測十分ノ二ヲ超ユル者ハ點數ヲ與ヘス
- 五 基本部ハ各下士卒ノ距離目測成績記入表ヲ備ヘ置キテ距離目測ヲ施行スル毎ニ其ノ成績ヲ記入シ下士卒他ノ基本部ニ轉シタルトキハ之ヲ新基本部ニ移スヘシ(別表第六)

別表第五射手履歷ナリ

達第二十號

艦營需品經理規程第十六條二項ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治四十一年二月十五日

海軍大臣 男爵齋藤 實

一 但其品名、數量、代價ヲ年度經過後十日以内ニ在籍鎮守府需品庫ヲ經テ經政本部ニ報告スヘシ

達第二十一號

海軍工事施行手續第一號舊式歲出科目ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治四十一年二月十五日

海軍大臣 男爵齋藤 實

工 事 名 稱

三十三

海 軍

達第二十二號

海軍教育本部處務規程第七條中「欄外ニ捺印シ」ヲ「提案ノ位置ニ捺印シ」ニ改ム

明治四十一年二月十五日

海軍大臣 男爵齋藤 實

達第二十三號

海軍經政本部處務規程第六條ノ二中「欄外ニ捺印シ」ヲ「提案ノ位置ニ捺印シ」ニ改ム

明治四十一年二月十五日

海軍大臣 男爵齋藤 實

3116

達第二十四號

兵器經理規程第二十一條但書ヲ左ノ通改正ス

但シ砲、砲架、水雷、發射機、探海電燈、發電機、彈丸、火藥ニ在リテハ海軍經政本部長ハ

海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

明治四十一年二月二十一日

海軍大臣男爵 齋藤 實

三十四

海軍

3117

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第二十五號

海軍工廠工務規程中左ノ通改正ス

明治四十一年二月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 海軍工廠長造船造兵用材料物品並器具機械ヲ外國ニ於テ購買セントスル  
トキハ其ノ品名數量金額期限事由等ヲ詳記シテ海軍艦政本部長ニ請求シ海軍艦政本  
部長ハ之ヲ調査シ造船造兵監督官ヲシテ處理セシムヘシ但シ重要ナルモノニ在リテ  
ハ海軍艦政本部長ハ豫メ海軍大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス  
前項材料物品並器具機械外國ヨリ到着シタルトキハ當該工廠長ハ精密ナル検査ノ上  
其ノ狀況ヲ海軍艦政本部長ニ報告シ海軍艦政本部長ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

達第二十六號

三十五

海軍

兵器造修試験検査規則中左ノ通改正ス

明治四十一年二月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條ノ二 海軍工廠長海軍造兵廠長ハ工務ノ都合ニ依リ兵器ノ製造接付修理及材料  
ノ加工ヲ内國私立製造所ニ請負ハシメ又ハ加工シタル材料ヲ内國私立製造所ヨリ購  
買スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量金額及事由ヲ記載シ海軍大臣ノ認可  
ヲ受クヘシ

第九條ヲ左ノ通改ム

第九條 海軍工廠海軍造兵廠及海軍下瀬火藥製造所ニ於テ製造スヘキ兵器ノ注文手續  
ハ海軍艦政本部長種類數量金額事由等ヲ詳記セル通牒書ヲ調製シ海軍大臣ノ認可ヲ  
經テ海軍工廠長海軍造兵廠長及海軍下瀬火藥製造所長ニ送付ス但シ海軍工廠ニ送付  
スルモノハ鎮守府司令長官ヲ經由スルモノトス  
海軍造兵廠ニ於テ購買スヘキ兵器ノ注文手續ハ前項ノ例ニ準スヘシ



明治四十二年達第百三十七號ヲ廢止

廢止

3119

改正

明治四十二年達第百三十七號ヲ廢止

達第二十七號  
海軍造兵廠ニ於テ購買スル兵器及海軍工廠海軍造兵廠海軍下瀬火藥製造所ニ於テ購買スル材料物品ハ左ノ方式ニ依ル月報ヲ以テ海軍大臣ニ報告スヘシ  
明治四十一年二月二十五日 海軍大臣 男爵 齋藤 實

明治 年 月 日		明治 年 月 分					
番 號	種 類	數 量	金 額	注文先	納付 期 日	契約 種 類	目 的

備考 運賃保險料關稅等ヲ要スルモノハ各別ニ記載スルモノトス

三十六

海 軍

達第二十八號  
海軍里程表別冊ノ通改正シ明治四十一年三月一日ヨリ施行ス但シ別冊ハ之ヲ要スル向ヘ 經理局ヨリ配付ス  
明治四十一年二月二十五日 海軍大臣 男爵 齋藤 實  
明治三十八年達第百七號

本年達第八號海軍武官文官考課表規則第五條第二項ノ資格ハ資格ノ誤又別表第二號工廠ノ部被考課官ノ權「各部長」ノ下ニ「副官」ヲ脱ス

正 誤

海 軍 省 副 官

達第二十九號

海軍軍人軍屬休暇規則中左ノ通改正ス

明治四十一年二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第三條 海軍兵學校海軍機關學校ノ生徒及下士卒並海軍砲術學校海軍水雷學校海軍工機學校ノ下士卒ノ外出ニ關シテハ海軍教育本部長、海軍經理學校ノ下士卒ノ外出ニ關シテハ海軍省經理局長之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條ノ三 公務ヲ帶ヒ六ヶ月以上臺灣、澎湖島若ハ樺太ニ出張精勤ノ上歸着シタル海軍軍人及海軍文官ニ對シ所轄長ハ之ニ十日以内ノ休暇ヲ許スコトヲ得此ノ場合ニ於テ所轄長ハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ